

これからは環境に大きな配慮を

岡山大学理事（安全・健康・医療担当）
清水 信義

第3次小泉内閣が発足しました。環境大臣は小泉総理大臣が「愛嬌もあるが度胸もある」と評した刺客第一号の小池百合子大臣の留任でした。小池大臣の提唱したクールビズも一定の効果があつたようですし、人前でなければ暑い夏はノーネクタイが快適であることに間違いはなく、蒸し暑い日本ではおそらく定着するものと思われまふ。それに続くウオームビズはどうでしょうか。これらもすべて地球温暖化の影響ですが、我が国でも、地球環境の急速な変化に対応するための法律が次々と施行されています。平成17年4月には、環境配慮促進法が施行され、国が指定した国立大学法人などの特定事業者は、事業活動を行ううえでその環境の保全についての適切な配慮をすることが要求され、年1回その対応状況を環境報告書として公表することが義務付けられました。早速、保健環境管理センターと安全衛生部でWGを設置し、各部局での資料作りをお願いし、環境への負の影響を及ぼすものを抑え、良好な環境作りの推進に取り組むことをお願いしているところです。すべての資源投入量を管理し、排出物、量の規制を行うことが必要になってきました。各部局でのご協力をお願い致します。

また、平成17年8月には、省エネ法（「エネルギーの使用の合理化に関する法律」）の一部改正が行われ、岡山大学はエネルギー使用量が多い事業場として、計画的なエネルギー管理が必要となり、エネルギー管理者（士）を配置し、管理標準を作成しなければなりません。まず今年度は津島団地、次年度は鹿田団地でこれを進める事になりました。

アスベストについても、施設部で大学全体の施設の調査をしているところで、まもなく結果が出るものと思いますが、社会全体では広範な被害状況がでてきており、国の対応も進んでいるようです。胸膜中皮腫がアスベストに因ることは以前から指摘されていましたが、やはり対応は遅きに失した事になります。しかしながら、もっとも広範で健康被害が大きいものは、なんと言つても喫煙です。アスベストの被害は甚大であります、比較的限局した場所です、患者も限定されています。これに比べて、喫煙率は少しずつ下がってはいるものの、まだ公共の場所での禁煙は進んでいません。過去の喫煙で、多くの方が重大な病気に罹患しており、WHOデータは2000年における日本での喫煙による死亡者数は112,400人と推定しています。

もっとも身近で簡単にできる環境配慮と健康促進は、禁煙です。